

和泉市寺田町所在

寺田遺跡 現地公開資料

—府営和泉寺田住宅建て替えに伴う発掘調査—

平成 25 年 (2013 年) 8 月 24 日 (土)

大阪府教育委員会 文化財保護課

はじめに

和泉市寺田町に位置する府営和泉寺田住宅の建て替えに先立つ試掘調査において、古墳時代から中世の遺構・遺物が出土したため、平成 14 年に、住宅敷地内を寺田遺跡として周知されることになりました。その後、建て替え事業に伴って、3 次にわたる発掘調査がおこなわれ、今回が第 4 次調査となります。府営住宅敷地北西部の道路拡張予定地において、今年度 7 月から発掘調査を実施しています (図 3)。

今回の調査成果

近現代の耕作土下層の黄褐色粘質土層上面 (第 1 面) で、北西—南東方向の溝が多く見つかりました。古代から中世の耕作に伴う鋤溝や区画溝とみられます (図 1・写真 1)。

この黄褐色粘質土層下面 (第 2 面) で、第 1・3 次調査で確認された流路の延長の可能性のある 034 流路を検出しました (図 5)。この流路からは、手あぶり形土器という祭祀に用いたとされる土器が、ほぼ完全な形で出土しました。また、調査区北側で検出した 037 土坑には、古墳時代前期の小型丸底壺や甕などの土器が埋まっていました。弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構面とみられます (図 2・写真 2・3・4)。

第 1～3 次の調査成果

第 1・3 次調査では、中期を中心とした古墳時代の集落跡を検出しました。竪穴住居・掘立柱建物など多数の建物跡、井戸、土坑、溝、流路などの遺構、朝鮮半島系土器、鍛冶関連遺物、須恵器、土師器、製塩土器、玉類、砥石、土錘など、大量の遺物が出土しました (図 4)。また、第 2 次調査では、調査区北西部で、弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての集落跡 (図 5)、南東部で、弥生時代中期から後期にかけての集落跡を検出しました。特に中期後半の竪穴住居が良好な状態で出土しました (図 6)。

おわりに

寺田遺跡は弥生時代中期から古墳時代後期まで、居住地域を移動しながら継続する集落遺跡といえます。古墳時代中期に集落は大規模となり最盛期を迎えます。古墳時代後期後半には耕作地として土地利用されたとみられます。今回の調査区は、古墳時代中期の遺物が少なく、集落から離れた地域といえます。弥生時代後期後半から古墳時代前期前半の流路や土坑、土器類を検出しており、集落の周辺部にあたると考えられます。

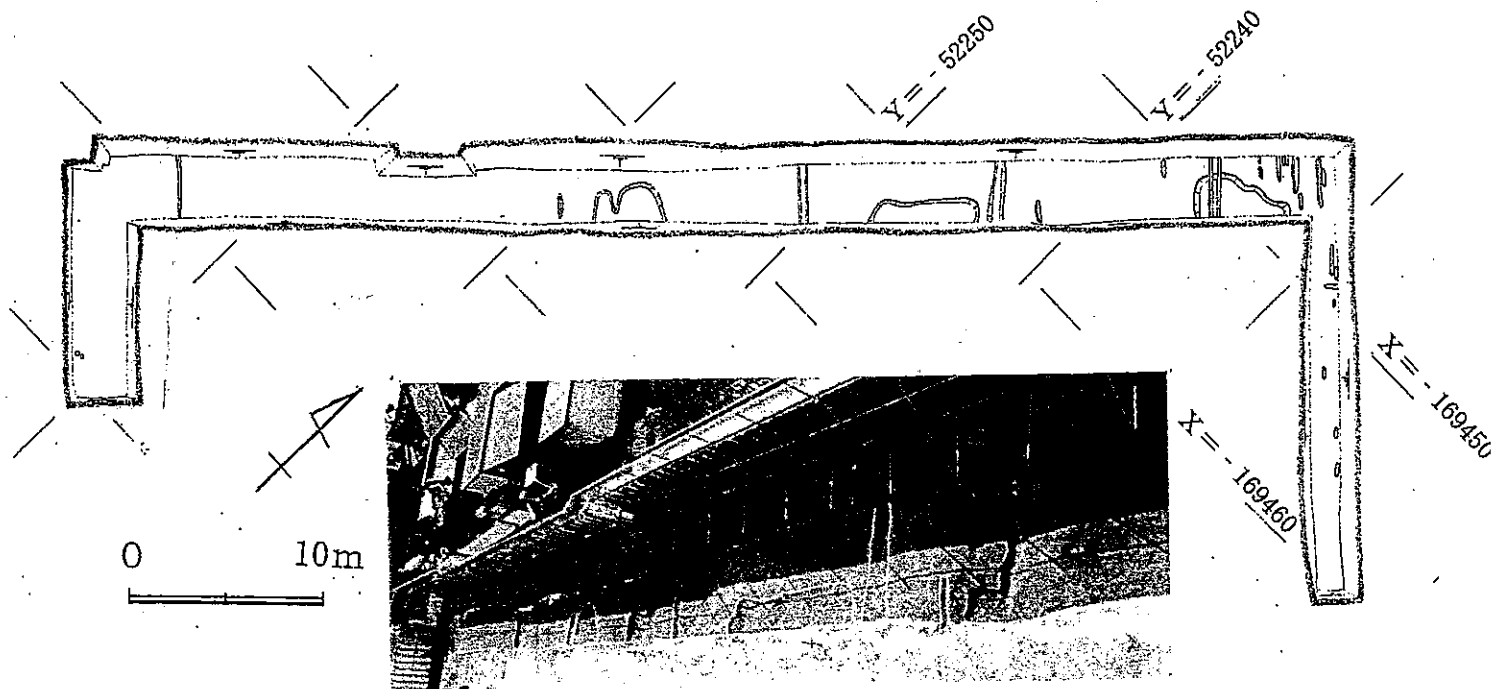


写真1 第1面 遺構 検出状況

図1 古代～中世の遺構（第1面）(1/400)

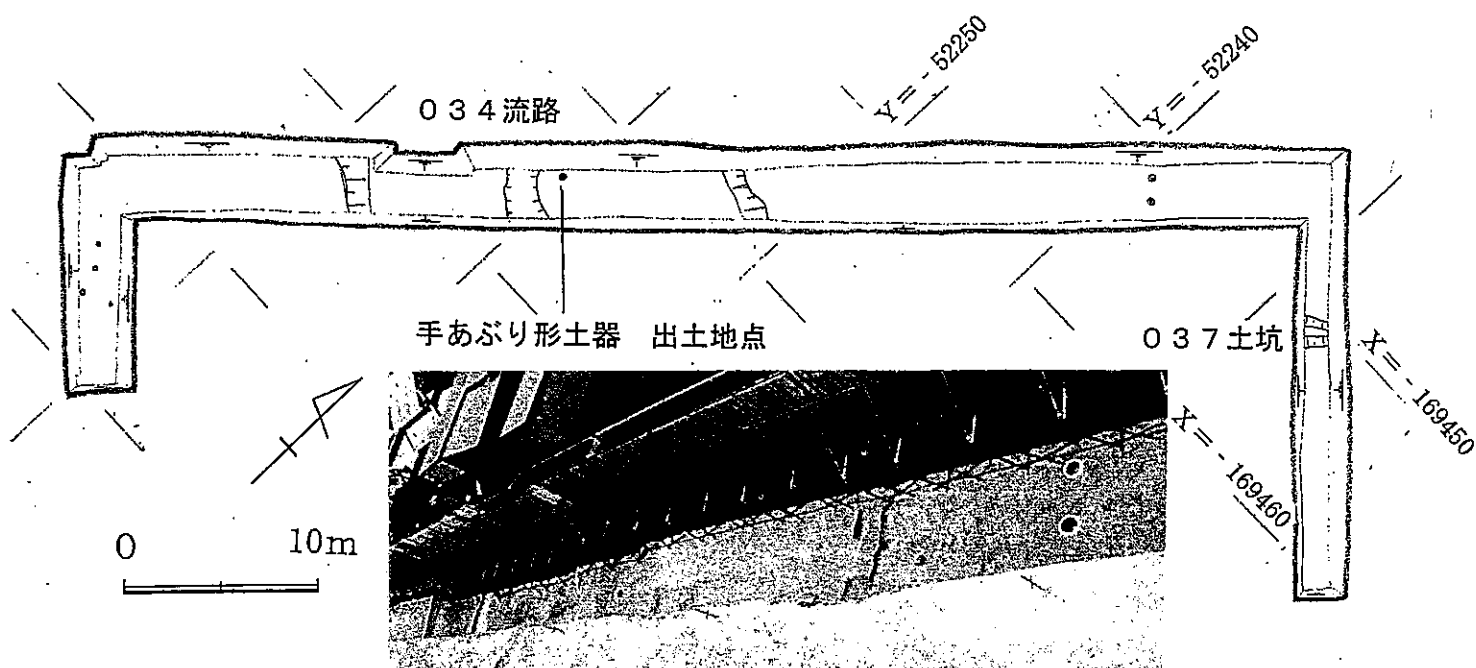


写真2 第2面 遺構 検出状況

図2 弥生時代後期後半～古墳時代の遺構（第2面）(1/400)



手あぶり形土器 出土状況

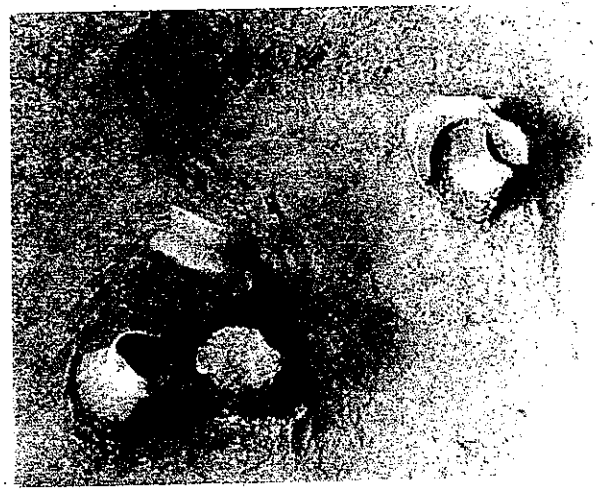


写真4 037土坑内 土器 出土状況

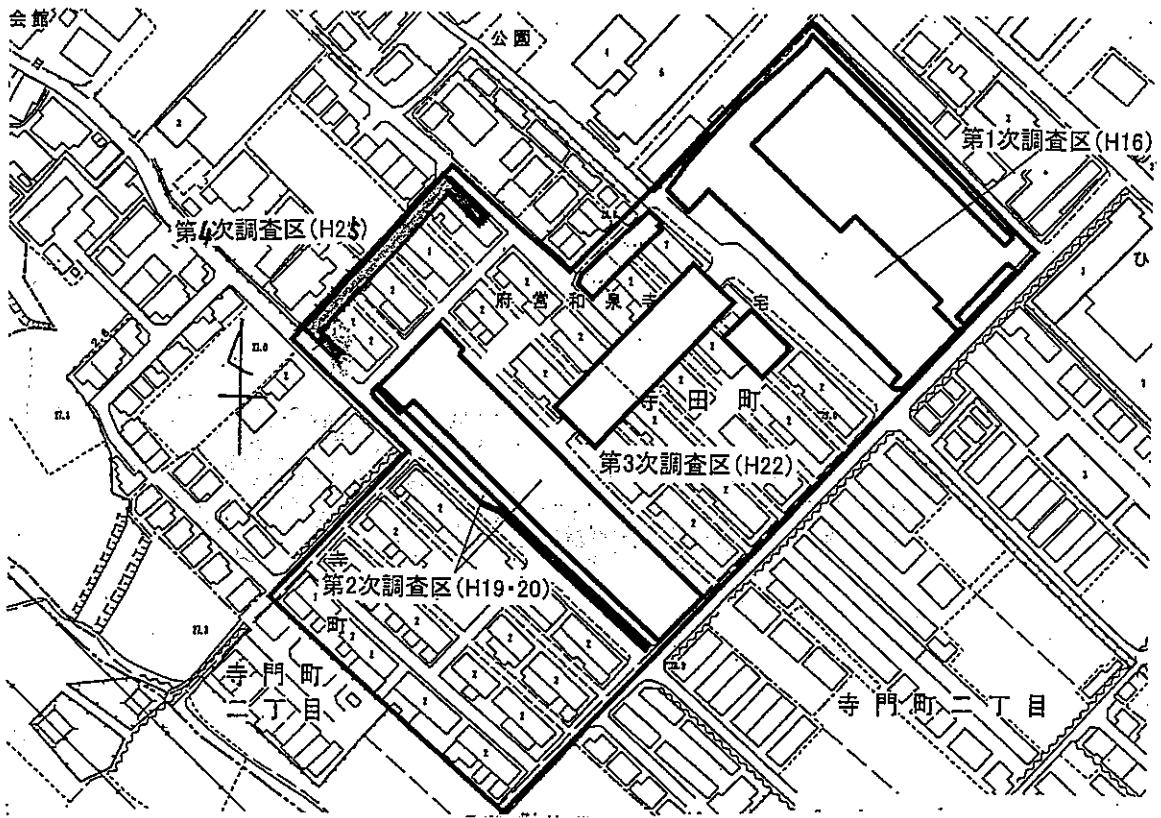


図3 今回の調査区（第4次）と第1～3次調査区

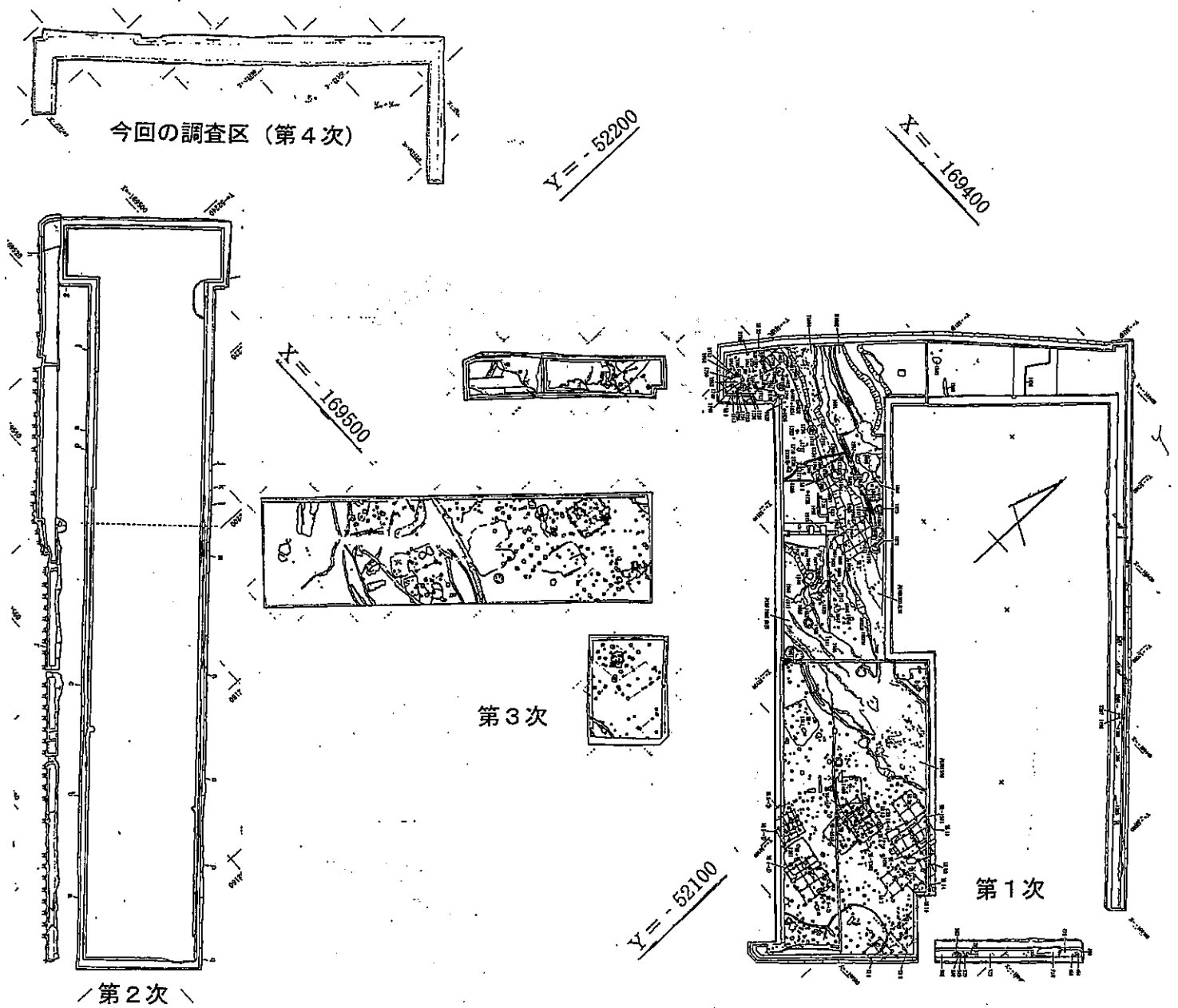


図4 古墳時代中期の遺構 (1/1000)

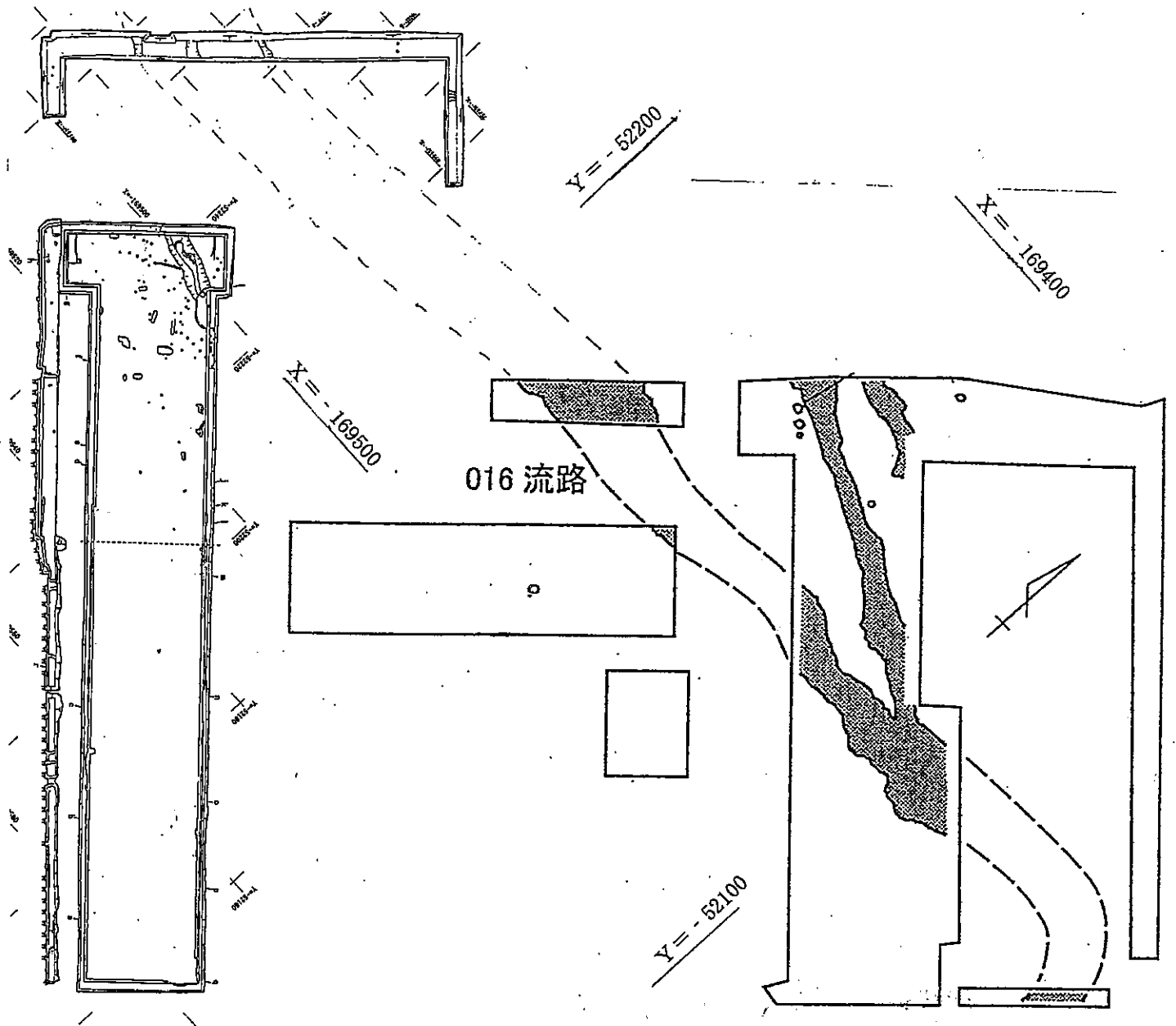


図5 弥生時代後期後半～古墳時代前期の遺構 (1/1000)

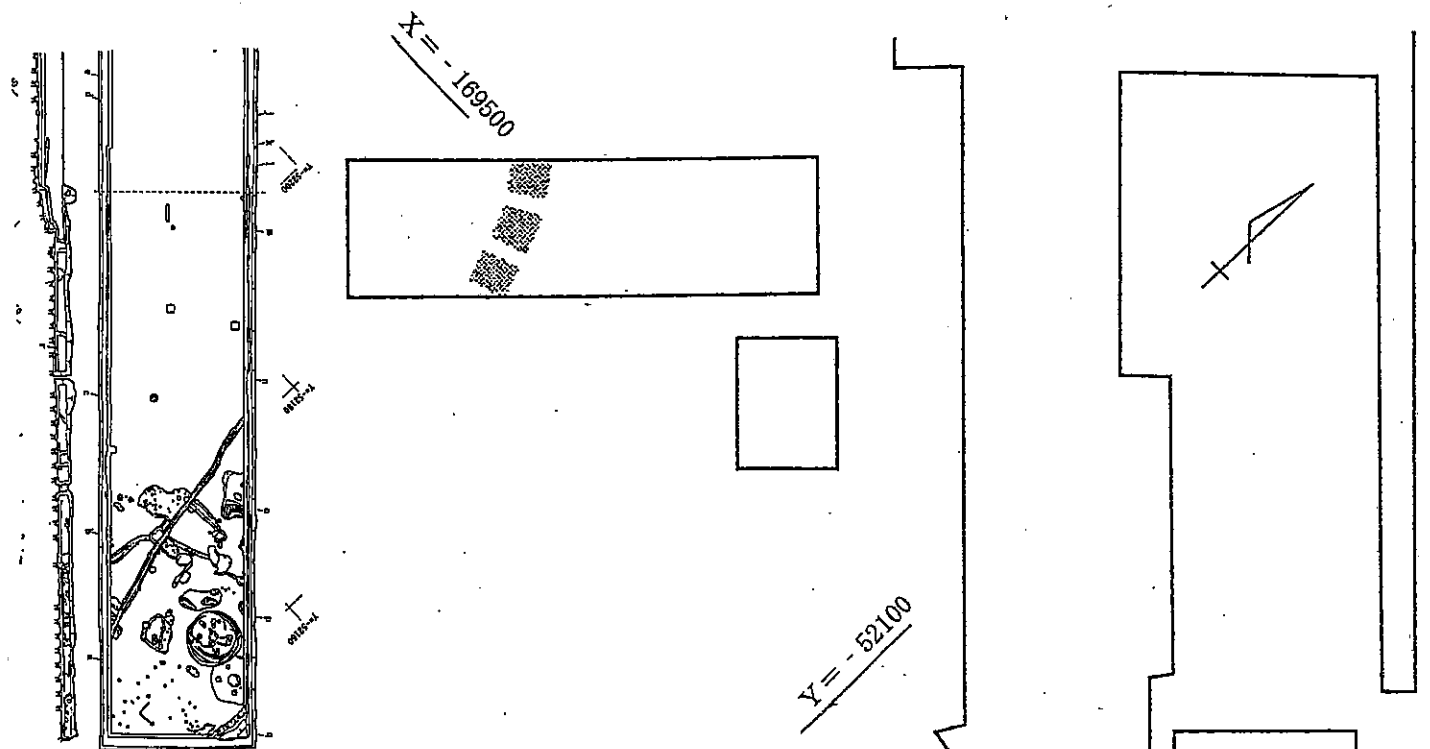


図6 弥生時代中期～後期の遺構 (1/1000)